東京シンフォニエッタ
第35回定期演奏会
Tokyo Sinfonietta the 35th Subscription Concert

20年の時を経て
音楽・演奏の変遷
An evolution or not… Beyond 20 years of the history

2014年7月3日(木) 19:00
19:00 Thursday, 3rd July 2014

サントリーホール ブルーローズ
Suntory Hall Blue Rose

指揮：板倉康明
Conductor : Yasuaki Itakura

演奏：東京シンフォニエッタ
Ensemble : Tokyo Sinfonietta

ジョージ・ベンジャミン：曙光
George Benjamin (1960-) : At first light (1982)

マグヌス・リンドベルイ：ウア
Magnus Lindberg (1958-) : UR (1986)

ジェラール・グリゼイ：周期
Gérard Grisey (1946-1998) : Periodes pour sept musiciens (1974)

ヤニス・クセナキス：ジャロン
Iannis Xenakis (1922-2001) : Jalons (1986)

入場料：一般4,000円 ／ 学生2,000円(全席自由)
主　催：一般社団法人 東京シンフォニエッタ
助　成：芸術文化振興基金 ／ 公益財団法人 三菱UFJ信託芸術文化財団
公益財団法人 野村財団 ／ 公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション

東京シンフォニエッタ
第35回
定期演奏会

Tokyo Sinfonietta
the 35th Subscription Concert

20年の時を経て 音楽・演奏の変遷

An evolution or not... Beyond 20 years of the history

2014年7月3日(木) 19:00 サントリーホール ブルーローズ

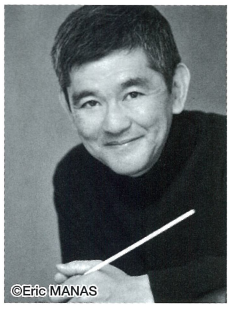
19:00 Thursday, 3rd July 2014 Suntory Hall Blue Rose

ごあいさつ

1994年11月9日にTS第1回定期演奏会を開き、その時と全く同じプログラムを今回演奏いたします。当時はグリゼイ、クセナキスがまだ活躍していました。以後20年、演奏家も変化しています。「現代音楽」と言う括弧付で、特殊な分野だと思われていた作品群が、現在はレパートリーの一部として、抵抗なく演奏されています。これらの四曲は当時すべて日本初演だったのですが、その後、私たちはもちろん、様々な団体によって再演されています。現在でも、すべて新鮮で素晴らしい、力のある作品です。この現象はいわゆる「現代作品」が、評価の定まったものという意味において「クラシック」となる経過を私たちは見てきたのでしょうか?私たちは演奏家団体としてそのような問題提起をしていきたいと思いました。

代表：板倉康明

板倉康明 指揮 Yasuaki Itakura


©Eric MANAS

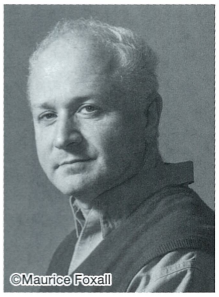
東京藝術大学を経て仏政府給費留学生として渡仏。パリ市立音楽院、パリ国立高等音楽院を卒業。まず、クラリネットソリストとしてキャリアを積み、これまでに東京都交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団等と共演。また国内外で、日本の作品について、演奏、講義を行っている。1996年西村朗作品により指揮デビュー。以後、現代作品を中心に、活発な指揮活動を行っている。これまでに、サントリー・サマーフェスティバル、サイトウ・キネン・フェスティバル松本、ブレゾンス音楽祭（仏）、ミュージック・フロム・ジャパン（NY）、現代音楽アスペクト（仏カーン）等、国内外の音楽祭に招聘されている。指揮者としてのレパートリーは広範囲に渡り、特に現代作品の演奏には各方面から高い評価を得ている。2001年より東京シンフォニエッタ音楽監督就任。日本音楽コンクール委員会特別賞、第18回中島健蔵音楽賞を受賞。現在、国立音楽大学客員准教授。

アンサンブル 東京シンフォニエッタ Tokyo Sinfonietta

©堀田力丸

1994年、同時代の音楽の優れた演奏と、現在活動している作曲家達の創作と直接関わることを目的として設立。以来、東京での定期公演や国内外の各種音楽祭への参加、また1996年のフランス・ドイツ公演を皮切りに、世界主要な現代音楽祭に出演。2012年にはラジオ・フランスより2回目の招聘を受け、公演の他放送を通して、国籍も美学も異なる現在活躍中の内外の作曲家の作品を紹介した。これまでに140名以上もの現代作曲家の作品を取り上げ、様々な年代の作曲家へ委嘱し、世界・日本初演作品等を紹介している。2010年「第28回定期演奏会-湯浅譲二特集」にて第10回佐治敬三賞、2013年CD『東京シンフォニエッタ・プレイズ西村朗-2／天女散花』（カメラータ）にてレコード・アカデミー賞現代曲部門、第26回ミュージック・ペンクラブ音楽賞クラシック部門《現代音楽部門賞》を受賞。
http://orchestra.musicinfo.co.jp/~ts/

ジョージ・ベンジャミン George Benjamin (1960～)


©Maurice Foxall

ロンドン生まれ。76年パリ音楽院に入学し、作曲をメシアン、ピアノをロリオに師事。その後ケンブリッジ大学キングス・カレッジにてアレクサンダー・ゲールに師事する。初めてのオーケストラ作品は、BBCプロムスにて「平らな地平線に囲まれて」を発表し、その後世界各地にて彼の作品が演奏されるようになる。87年にはポンピドゥー・センター10周年を記念して、IRCAMから2作品「曙光」と「冬の心」の委嘱を受ける。ギルドホール音楽院、王立音楽アカデミー、RCM、の名誉フェロー。指揮者としても活躍している。

マグヌス・リンドベルイ Magnus Lindberg (1958～)

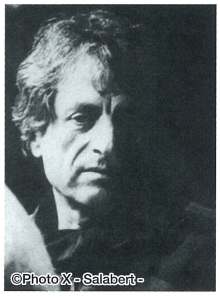
©Hanya Chlala Arena PAL.

ヘルシンキ生まれ。シベリウス・アカデミーにてラウタヴァーラとヘイニネンに作曲を学ぶ他、ピアノをヘラスヴオに学ぶ。ストックホルムにあるEMSやパリのIRCAMで学び、ドナトーニのマスタークラスや、グリゼーやグロボカールらに師事する。96年サウスバンクセンターでのメルトン・フェスティバルでは芸術監督、ニューヨーク・フィルハーモニック・オーケストラでは09年よりコンポーザー・イン・レジデンスを務める。イタリア賞や、93年ロイヤル・フォルハーモニック協会、03年シベリウス賞を受賞。

ジェラール・グリゼイ Gérard Grisey (1946～1998)

フランス東部ベルフォール生まれ。パリ国立高等音楽院でピアノ伴奏法、和声、対位法、フーガ、作曲を学ぶ。作曲ではメシアン、デュティユー、講習会ではリゲティ、シュトックハウゼン、クセナキスなどに師事、パリ第6大学他で音響学も学ぶ。ローマ賞受賞に伴い2年間ローマのメディチ荘に滞在。そこでミュライユ、レヴィナスらと共にイティネレールと呼ばれる作曲家と演奏家によるグループを結成、活発な創作・演奏活動を始まる。「漂流」や「周期」などこの時期の作品において、音響現象としての倍音スペクトルや電子音響技術に立脚した作曲法を確立した。

ヤニス・クセナキス Iannis Xenakis (1922～2001)


©Photo X - Salabert -

ルーマニア生まれ。ギリシャのアテネ工科大学にて、科学と数学と建築学を学ぶ。1948年より約11年間は、ル・コルビュジェ（1887-1965）のアトリエに入り建築の摂家や構造計算をする傍ら作曲するが、以降は作曲に専念する。メシアンに「君は建築家であり数学者だ。なぜそれを自らの音楽に役立てないのか」と言われたことがきっかけで、確率計算による音楽理論を作曲に用いるようになる。例えば《メタスタシス》（1953-54）では、1958年のブリュッセル万国博覧会のために自信が設計したフィリップス館の形を、その音楽構造に応用している。

次回定期演奏会の予告

2014年12月11日(木) 19:00～
場所：サントリーホール ブルーローズ

出演：板倉康明（指揮）、オリヴィエ・スタンキエーヴィチ（Ob）、東京シンフォニエッタ
バンジャマン・アタイール：新作 オーボエ協奏曲／権代敦彦：沈黙のための七つのコラール変奏曲／ユーイ・ラウケンス：ファースト・ムーブメントとエピローグ／一柳慧：交響曲第8番～平成黙示録

■**主催**：一般社団法人 東京シンフォニエッタ　http://orchestra.musicinfo.co.jp/jp~ts/
■**チケットお取り扱い**：**チケットぴあ** 0570-02-9999　t.pia.jp Pコード225-409　**東京文化会館チケットサービス** 03-5685-0650　http://www.t-bunka.jp
■**お問合せ**：東京コンサーツ 03-3226-9755（月～金 10:00～18:00）http://tokyo-concerts.co.jp（HPにて予約、セブン・イレブンにて支払・受取ができます。）
■**サントリーホール ブルーローズ**：地下鉄東京メトロ 南北線六本木一丁目駅3番出口徒歩5分／銀座線・南北線溜池山王駅13番出口徒歩7分 ※出演者・曲目は予告なしに変更になる場合があります。